

**製品名: 9G8 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06351**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	35kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SRSF7
別名	SRSF7; SFRS7; Serine/arginine-rich splicing factor 7; Splicing factor 9G8; Splicing factor; arginine/serine-rich 7
遺伝子 ID	6432.0
SwissProt ID	Q16629
免疫原	抗血清はヒト SFRS7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

**背景**

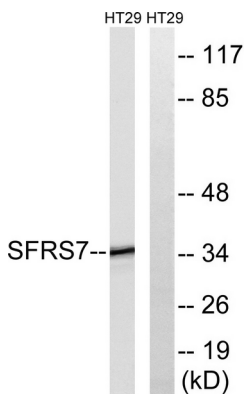
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/アルギニン (SR) に富む pre-mRNA スプライシング因子ファミリーの一員で

あり、スプライソソームの一部を構成しています。これらの因子はそれぞれ、RNA を結合するための RNA 認識モチーフ (RRM) と、他のタンパク質を結合するための RS ドメインを含んでいます。RS ドメインはセリンおよびアルギニン残基に富み、異なる SR スプライシング因子間の相互作用を促進します。SR タンパク質は mRNA スプライシングに重要であることに加え、mRNA の核外輸送や翻訳にも関与することが示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2010 年 9 月]、代替製品: RS ドメインを欠いていることが多く、胎児組織で異なる発現を示すアイソフォームは、9G8 機能の調節に関与している可能性があります。in vitro で選択的スプライシングを調節する働きもあります。PTM:RS ドメインのセリン残基が広範囲にリン酸化されています。類似性:スプライシング因子 SR ファミリーに属します。類似性:CCHC 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。類似性:RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを 1 つ含みます。サブユニット:CCNL1 と CDC2L1 または CDC2L2 の p110 アイソフォームを含む高分子量複合体に存在します。CCNL2 および CPSF6 と相互作用します。組織特異性:脳、肝臓、腎臓、肺。、

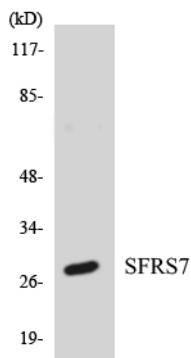
## 研究分野

スプライソソーム;

## 画像データ

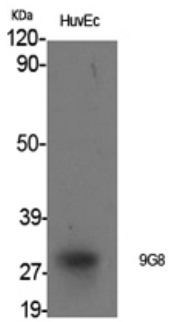


HT-29 細胞ライセートの SFRS7 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



SFRS7 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

9G8 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタン ブロット分析。



9G8 ポリクローナル抗体を使用した HuvEc 細胞のウエスタン ブロット分析。

